P-58

診療情報管理士試験のコーディング技術のスキルアップ・プログラム開発に関する研究

坂井さなえ[1)]、赤塚千晶[2)]、阿部里佳子[2)]、大田奈央[2)]、中嶋千枝[2)]、堀真奈美[2)]、松井未来[2)]、山川千晶[2)]

1) 新潟医療福祉大学 医療情報管理学科
2) 新潟医療福祉大学 医療情報管理学科平成26年度卒業生

【背景・目的】本学医療情報管理学科(以下、本科)の学生が獲得を目指す資格に診療情報管理士がある。この認定試験の合格率は全国平均50%前後で、本科の結果は平成24年度 28.0%、25 年度は 77.1%であり CBT 方式(通称UCAR)の受験対策が効果を上げ、本試験合否結果とUCAR の正解率との正の関連が判明している。しかし、UCAR での正解率が高いにもかかわらず不合格者みられることから CBT 方式でスキルアップができないコーディングに問題があり、合格水準に達するためには、より効率的なコーディング教育が必要と考えられる。

【方法】対象者は本科に在学する学生のうち、すでに診療情報管理士認定試験に合格した者、及び平成26年度受験予定者14名とした。平成25年度合格者13名は無作為に2群(A・B)に分け、平成26年度受験予定者はコントロール群とし下記ステップで行った。
プログラムA群:診療情報管理士有資格教員による60分の講義後にコーディング模擬試験実施。
プログラム B 群:A 群と同一例題で学生間の自由討論による問題解決を60分間行った後に模擬試験実施。
コントロール群:A群・B群の学習を行わずに模擬試験のみ実施。模擬試験時間は診療情報管理士認定試験と同様の90分とした。

なお、本研究は新潟医療福祉大学倫理委員会の承認を受けた後、対象者に協力を依頼、口頭と書面にて研究内容の説明を行い同意を得て実施した。

【結果】各プログラムの模擬試験結果の平均点をみると、A群は65.5点、B群は62点、コントロール群は59.68点という結果であったことから、この平均点を用いてプログラムA群、プログラムB群、コントロール群で多重比較を行い、どのプログラム間に有意な差があるかを調べた。

その結果、プログラムA群とプログラムB群を比べた場合、P値が0.48となり、有意な差はみられなかったが、プログラム A 群とコントロール群を比べた場合 P 値が0.19となり、有意な差はないものの、有意水準に近い傾向がみられた。

また、診療情報管理士認定試験の合格基準が60点であることから、模擬試験の結果が60点以上の者を合格とし、60 点未満の者を不合格として分けコクラン・アーミテージ検定を行った結果、片側P値が0.04の有意な差があり、プログラムA群、プログラムB群、コントロール群の順で有意な傾向が見られるとともに、プログラム A 群、プログラムB群、コントロール群の順に、合格率が83%、71%、50%と右下がりに減少していく傾向があった。

【考察】本プログラムが不合格者を合格にするためのプログラムであることから、コントロール群よりプログラムB群、プログラムB群よりプログラムA群のほうが効果的であったということが言え、資格試験対策としては合理性があると判断された。また、プログラムA群は、教員による講義で正確なコーディング法が習得できたため、合格率が高かった。それに対して、プログラムB群は、グループワークという学生の間だけで行う勉強方法であるため、難しい問題などはプログラム A 群のように正確なコーディング法が学生間だけでは習得できず、プログラム A 群より合格率が劣ったと考えられる。

しかし、プログラムA群、プログラムB群の合格者及び不合格者を Fisher の正確確率検定にかけると、プログラム間に有意差はないことから、プログラム A 群、プログラム B 群ともにコーディング法を習得するのに適しており、どちらのプログラムも効果的なものであったと考えられる。

【結論】ICD-10に基づくコーディングのスキルアップ・プログラムとしては、模擬試験の平均点で検定を行った結果、プログラムA群とプログラムB群に有意差はなく、優劣をつけることはできなかった。そこで、診療情報管理士の合格率に着目すると、プログラム A 群が不合格者を合格者にするためのプログラムとして、より効果的であるという傾向がみられた。

プログラム内容を考える際にサンプル数(対象者数)や対象者、グループ分けを考慮した場合、今回とは異なる結果が得られたのではないかと推察された。

【文献】

1) 上門要，大城真理子，木村堅：診療情報管理系基礎演習におけるグループワークおよびLTD話し合い学習法の導入：求められる診療情報管理士育成を目指して第一報，19：133-142，2014.
2) 出口拓彦：「グループ学習に対する教師の指導」に関する研究の動向と展望，50：175-183，2003.
3) 武田隆久：診療情報管理士テキスト診療情報管理Ⅳ専門・国際疾病分類法編(第6版)，一般社団法人日本病院会，117-293，2014.